

「静岡の技」の新たな価値を切り拓くデザインプロジェクト：
駿河竹千筋細工の職人と共創するデザイン

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2024-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川原崎, 知洋 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000265

「静岡の技」の新たな価値を切り拓くデザインプロジェクト

—駿河竹千筋細工の職人と共創するデザイナー—

川原崎 知洋

(静岡大学 教育学部 美術教育系列)

Design Project for Exploring New Values of “Shizuoka Craftsmanship”

Design Collaborations with Artisans of Suruga Bamboo Crafts

Tomohiro Kawarasaki

Abstract

This study reports on the process and results of the Suruga Bamboo Craft Tree design project (client: the Shizuoka Prefecture Cultural Foundation), where students co-create designs with the artisans of Suruga Bamboo Crafts to explore new values of “craftsmanship” in Shizuoka. We commissioned Mr. Shigeyasu Sugiyama of Miyabi Andon Manufacturing Co. Ltd. (a maker of Japanese-style lamps made of wood and paper), who has been awarded the title of “Traditional Craftsman” by the Minister of Economy, Trade, and Industry, to create a piece for this project. The design process and its results are reported to articulate the new values of “Shizuoka Craftsmanship” and present a model case of collaboration among universities and various institutions.

キーワード：駿河竹千筋細工 伝統工芸 デザイン 静岡の技 問題発見力 問題解決力

1. 駿河竹千筋細工と静岡市の伝統工芸の現状

静岡市の代表的な伝統工芸として、駿河竹千筋細工・駿河雛具・駿河雛人形・駿河漆器・駿河和染め・駿河下駄など多数存在する。その中でも駿河竹千筋細工は「伝統的工芸品¹⁾」として経済産業大臣の指定を受けている工芸品である。駿河竹千筋細工は江戸時代より笠や鈴虫籠の生産からその歴史は始まったとされている。現在では花器や照明シェード、レリーフ、バッグなど、さまざまな製品が商品開発されており、欧米や中東などの海外からの受注も多い。静岡市内には国が指定する「伝統工芸士²⁾」の称号が付与されている駿河竹千筋細工の職人が数名存在している。このように、駿河竹千筋細工は「特別な工芸品」として位置付けられている。しかし、課題も山積している。竹製の工芸品の生産量は昭和50年代後半から減少の一途を辿っている。機械生産による大量生産によって提供される安価な製品の普及により、それまでの生活必需品から高価な工芸品として取り扱われるようになったことが大きな要因であると考えられる。また、職人の労働環境の改善という問題も追い討ちをかけ、後継者不足であることも課題としてあげられる。こうした複数の課題を解決するために静岡竹工芸協同組合として

- (1) PRによる知名度のアップ
 - (2) デザインの工夫とニーズをつかんだ製品づくり
 - (3) 付加価値の高い商品づくり
- 上記3つの目標を掲げている。

静岡竹工芸協同組合の1つ目の目標である「(1) PRによる知名度のアップ」の現状として、静岡駅構内に静岡市内の伝統工芸を静岡土産として購入することができる「駿府楽市」がある。静岡市駿河区丸子には伝統工芸を楽しむことができる「駿府の工房 匠宿」が2021年5月にリニューアルオープンしている。静岡市内の若手職人グループは「するがクリエイティブ」を立ち上げ、webやSNSなどによる情報発信に力を入れている。しずおか焼津信用金庫では静岡市に在住する小学生を対象に「しずおか夢デザインコンテスト」を開催し、様々な分野の職人と協働することで、静岡の技の素晴らしさを広く周知させる取り組みを実施している。さらに、静岡竹工芸協同組合の継続的な取り組みとして、静岡市内の小中学校で静岡の伝統工芸を体験できる出張授業を実施しているため、静岡市内の多くの子どもたちは伝統工芸に対して親しみを感じている。このように、次世代に向けて静岡のものづくりの魅力を伝えようとする活動と機運が確認される。

2. 駿河竹千筋細工のツリー

駿河竹千筋細工の職人の技を、新たなデザイン、新たなプロダクトとして企画開発するプロジェクトを推進することは、先述した静岡竹工芸協同組合の3つの目標とも合致する。また、駿河竹千筋細工の職人のクリスマスオーナメントの制作実績はこれまでになかったことから、未知のジャンルに対し

て共創しながらものづくりにチャレンジすることは大きな意義があると考えた。

2-1 クリスマスツリーオーナメント制作の依頼

2023年2月、公益財団法人静岡県文化財団からグランシップ（静岡市）1F エントランスに展示する「クリスマスツリー装飾デザイン」の制作について依頼いただいた³。グランシップは「文化創造と交流の拠点」として、静岡県の文化振興の一躍を担う複合文化施設である。年間を通して演劇や音楽コンサートなどを中心に大型イベントが企画されており、多くの来館者が見込まれる。コロナ禍であった2022年度の来館者は60万人程度であったが、今後はさらに多くの来館者が見込まれる。多くの来館者の方々に「静岡の技」の素晴らしさを伝えるためには絶好の環境である。

2-2 デザインプロセス

公益財団法人静岡県文化財団からクリスマスツリー装飾デザインの制作依頼をいただいた時期、ちょうど自宅に吊るし雛を飾っていた。（図1）その吊るし雛の上部には駿河竹千筋細工で作された球体型の造形が施されている。その球体型の造形が非常に繊細で美しく、まるで和のクリスマスオーナメントのように感じられた。

そこで、「しずおか夢デザインコンテスト」の事務局をご担当されている佐藤忠輝氏（しずおか焼津信用金庫）から、静岡市内の駿河竹千筋細工の職人で伝統工芸士の称号が与えられている杉山茂靖氏（有限会社みやび行燈製作所）をご紹介いただいた。



図1：吊るし雛の駿河竹千筋細工

2023年3月14日、有限会社みやび行燈製作所を訪れ杉山茂靖氏と初めてお会いした。そこで2023年のグランシップクリスマスツリーの装飾案について企画書（図2）を用いて説明した。これまでになかった和のオーナメントを開発する意義と、静岡の伝統工芸の技の素晴らしさを複合文化施設であるグランシップに来館した県内外の多くの方々に知っていただける絶好の機会であることなどをお伝えした。クリスマスツリーの装飾案とオーナメント

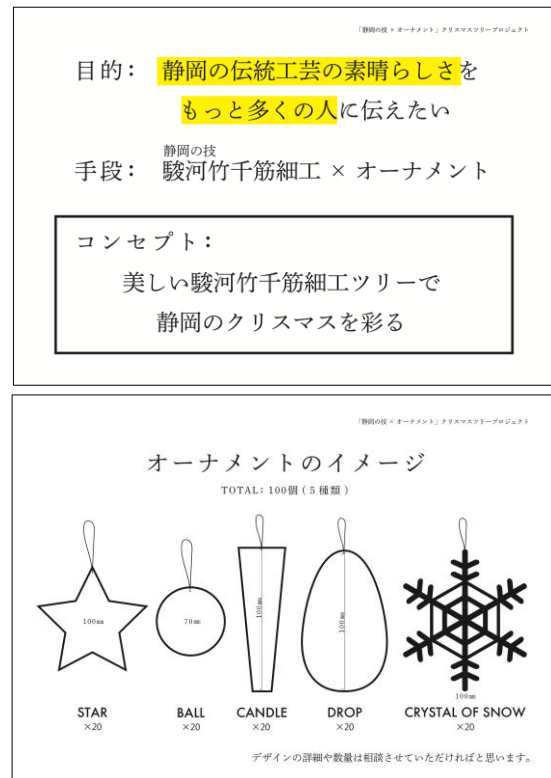


図2：駿河竹千筋細工のオーナメント企画書（一部）

案に関する概要説明のあと、今後のスケジュールと予算などについてもお伝えした。初回の打合せにおいて、概ね内諾をいただいた。しかしながら、企画書の中に記載したオーナメントの形態が一般的なオーナメントを模した単純な造形（スター型、球体型、キャンドル型、ドロップ型など）であったため、駿河竹千筋細工によって制作されたオーナメントのみを今回のコンセプトにするのではなく、オーナメントの造形にもストーリー性が必要であることのご指摘をいただいた。

5月22日、有限会社みやび行燈製作所を学生とともに訪れ、オーナメントの造形方向性とコンセプトについて検討した。駿河竹千筋細工の制作行程において難しいことや制作することのできない形状などについて教えていただいた。（図3）



図3：みやび行燈製作所を訪れた学生

7月20日、プロジェクトに参画する学生たちと「駿府の工房 匠宿」を訪れた。オーナメントをデザイン制作すること、また11月下旬に小学生を対象に駿河竹千筋細工の行燈制作のワークショップを実施することが決まったことから、デザイン企画する者として少なくとも一度は駿河竹千筋細工の制作体験をしておく必要があると考えた。そこで、匠宿の駿河竹千筋細工の体験工房で制作体験を行った。1時間程度でカゴや花器などを制作することができた。駿河竹千筋細工の制作を実施する際に必要な物品や制作工程において気を付けるべき点などを共有した。(図4)



図4：匠宿で駿河竹千筋細工を体験する学生

7月25日、匠宿で経験したことを踏まえて学内でオーナメントの造形とツリーのコンセプトについて再検討した。杉山氏の発言の中に「(駿河竹千筋細工は)生活の中で積極的に使用するものであってほしい」という作り手の願いが潜在していることに着目した。この願いを実現させるために、クリスマスオーナメントとして使用し終わった後でも、日常生活の中で活用するためのアイデアとして、アクセサリー案・インテリア案・おもちゃ案などが想起された。その中でも「おもちゃ案」はクリスマスというイベントとの親和性も高いため、オーナメントコンセプトを「子どものおもちゃとしても利用できるオーナメント」とした。(図5)

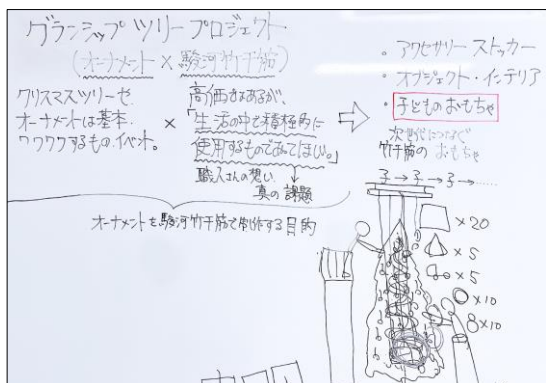


図5：オーナメントコンセプトの検討

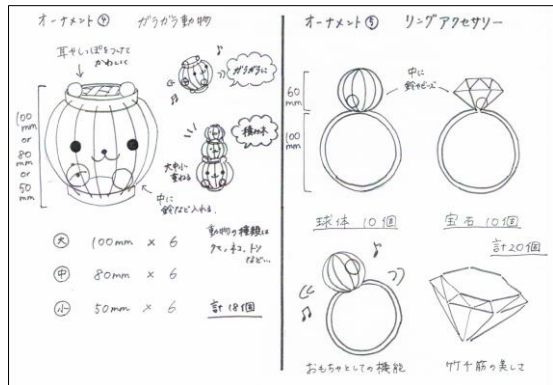


図6：ツリーイメージ(上)とオーナメント案(下)

8月2日、オーナメントコンセプト「子どものおもちゃとしても利用できるオーナメント」を基に、全体的なツリー案をラフスケッチで表現した。子どものおもちゃである「SL」がオーナメントの主役となり、ツリー全体を取り巻いているようなデザイン案が想起された。SL以外のオーナメントとして、クルマやロケット、球体形の積み木、リングアクセサリ、プレゼントBOXなどが提案された。(図6)

8月17日、ラフスケッチ案を基に、具体的な形状とサイズ感を伝えるためにSL、SLの客車、クルマ、ロケットを図面化した。これまでに杉山氏から教えていただいた駿河竹千筋細工の制作行程や素材の特性、経済寸法などをある程度考慮しながら設計した。

(図7) 図面をお渡しした後も製作所に伺い、細かな造形処理や途中経過などを相互確認しながら制作を進

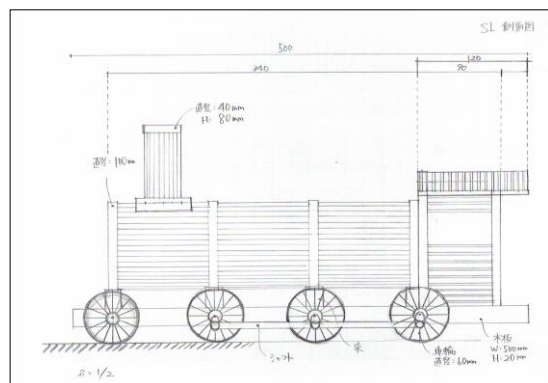


図7：SLの設計図(側面図)



図 8 : 製作所での杉山氏との打合せ



図 10 : オーナメントへの装飾



図 9 : 駿河竹千筋細工のオーナメント

めていただいた。設計者が考えてもいなかったディテールにまでこだわっていただき、スケジュールと予算内で制作可能なご提案をいくつもいただきながらプロジェクトを推進させることができた。(図 8)

10月27日、メインオーナメントのSLトップ1台とSL客車(大中小合わせて9台)、球体積み木(大中小合わせて15個)が完成する。その翌週には、ロケット5台、クルマ5台、指輪15個、プレゼントBOX20個が納品された。別途、乳児用のおもちゃとして開発していたドーナツ型のオーナメントの10個も加わり、合計80個の駿河竹千筋細工のオーナメントが完成した。(図 9)

11月10日、納品された駿河竹千筋細工のオーナメントに、ツリーに掛けるためのテグスの輪を取り付ける作業と、クリスマス感を演出するためにオーナメントに装飾を施す作業を行った。(図 10)

11月12日、グランシップの1Fエントランスに設営された高さ4メートルのクリスマスツリーに駿河竹千筋細工のオーナメントを展示した。室内に設置されたツリーのため、ベース照明によってツリーを含むエントランス全体が照らされている。そのため、屋外に設置されたクリスマスツリーのようにLED電飾による煌びやかな照明効果を期待することができないという環境条件があった。そこで、LED電飾が駿河竹千筋細工のオーナメントのノイズにならないよう、ツリーの内側に設置することがポイントとなる。ツリーの内側にLED照明を密集させておき、反射率の高い鏡面素材のオーナメントによって、内側から光を拡散させる効果を期待した。

LED照明の設置終了後、駿河竹千筋細工のオーナメントの設置を行なった。エントランスの中央に置かれたクリスマスツリーは正面性(入口からの正面)があるものの、全方向からツリーを視認できるため、装飾密度の大きな強弱をつけることができない。どの角度から鑑賞しても美しいツリーとして演出されていることが求められる。80個のオーナメントをバランス良く配置できるように留意しながら展示した。

メインのオーナメントであるSL(SLのトップと客車)は、冬の夜空を走るSLのような浮遊感を演出するために、天井から直接吊るす展示方法を選択した。天井までの高さが約5メートルあることと、SLの躍動感を演出するためにSL自体にも角度をつけながら客車も含めた10台を一つひとつ微調整しながら展示した。(図 11)

なお、クリスマスツリー上部の左右には、日本の伝統文様である「麻の葉」と「籠目」を活かした演出パネルを配置した。(図 12)麻の葉は真っ直ぐに成長することから、子どもの健やかな成長という願いが込め



図 11：駿河竹千筋細工のツリー



図 12：バナーグラフィックデザイン



図 13：コンセプトグラフィックボード

られている。籠目は竹を編んだ文様ということで親和性が高い。また、クリスマスツリーの土台の4面には、バナーデザインと呼び寄せたパターンデザインを施し、「クリスマスツリー×駿河竹千筋細工」のクレジットをロゴマークのように配置させた。

最終的にはクリスマスツリーのネーミングを『駿河竹千筋細工のツリー』とした。ツリーの根元にコンセプトグラフィックボード(図13)を設置し、今回の最も重要なコンセプトである駿河竹千筋細工のオーナメントであること、オーナメントとして使用した後おもちゃとしても使用できるサステナブルなオーナメントであることについて記述した。なお、グランシップ1Fのエントランスにて、駿河竹千筋細工のツリーに関するアンケート調査を実施した。以下、駿河竹千筋細工のコンセプトを記載する。

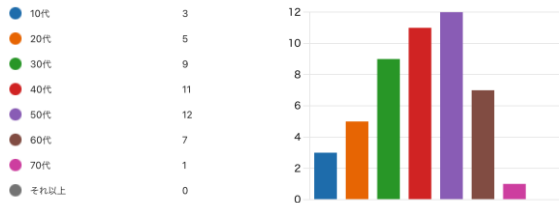
駿河竹千筋細工のツリー

駿河竹千筋細工による和のオーナメントツリーです。静岡市の伝統工芸、駿河竹千筋細工の職人で伝統工芸士の杉山茂靖氏(有限会社みやび行燈製作所)の技術によって竹製のオーナメントが実現しました。駿河竹千筋細工の繊細で美しい造形をお楽しみください。

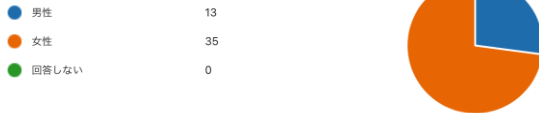
駿河竹千筋細工で制作したオーナメントのモチーフは「おもちゃ(SL・ロケット・クルマ・指輪・リング・つみ木・BOX)」です。通常、オーナメントはクリスマスが終わると押し入れに収納されてしまいますが、このオーナメントはクリスマス以外でも子どものおもちゃとして活躍します。使い込んでいくうちに竹特有の色艶の変化も楽しむことができるので、子どもが成長した後は、次の世代の子どもへ、さらにその先の未来へと継承されることを願っています。

駿河竹千筋細工に愛を込めて Merry Christmas!

1. あなたの年齢（年代）を教えてください



2. あなたの性別を教えてください。



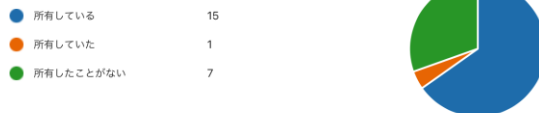
3. あなたのお住まいはどちらですか？



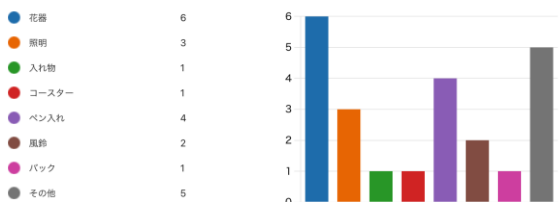
4. 駿河竹千筋細工（するがたげせんすじざいく）を知っていましたか？



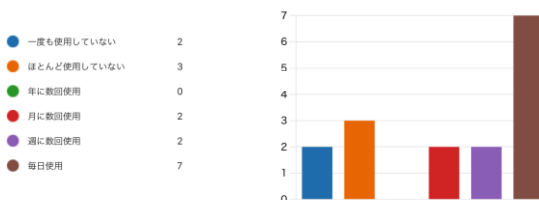
5. 「以前から知っていた」を選択した人にお尋ねします。駿河竹千筋細工の商品を何か所有していますか？



6. 「所有している」「所有していた」を選択した人にお尋ねします。どのような商品を所有しています（した）か？（複数回答可）



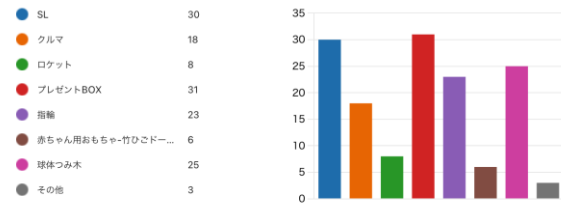
7. 上記で回答した商品はどのくらいの頻度で使用しています（した）か？



8. 今回のツリーは駿河竹千筋細工で制作されたオーナメントです。オーナメントとして使い終わった後は「子どものおもちゃ」や「部屋のインテリア」としても使用することができます。あなたは欲しいですか？



9. 駿河竹千筋細工で制作されたオーナメントで「推しのオーナメント」はどれですか？（3つチェックをつけて投票してください）



10. 駿河竹千筋細工のオーナメントを「贈り物（例えば内祝いや子どもの誕生日プレゼント）」として購入する場合、いくらなら購入を検討しますか？

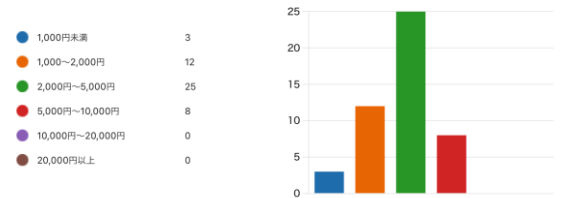


図 14：アンケート集計結果

3. アンケート調査

駿河竹千筋細工のツリーの鑑賞者に対し、任意でアンケート調査を行なった。

3-1 調査目的と調査内容

調査の目的：

- ・駿河竹千筋細工の認知度と利用率を調査する
- ・今回デザインした駿河竹千筋細工の8種類のオーナメントのニーズを調査する
- ・駿河竹千筋細工のツリーを鑑賞した感想を調査する

調査内容：

- (1) 回答者の年代
- (2) 回答者の性別
- (3) 回答者の住まい
- (4) 駿河竹千筋細工の認知度
- (5) 駿河竹千筋細工の所有率
- (6) 所有している場合の種類
- (7) 所有している製品の使用頻度
- (8) 駿河竹千筋細工オーナメントのニーズ
- (9) 8種のオーナメントの人気投票
- (10) オーナメントの価格帯
- (11) 駿河竹千筋細工のツリーの感想（自由記述）

調査場所：グランシップ 1F エントランスホール

調査期間：令和5年11月20日（月）～12月25日（月）

調査対象：駿河竹千筋細工のツリーの鑑賞者

回収方法：ツリーの根元に QR コードを掲示し、web アンケートとして無記名で回答

有効回答数：48 名

3-2 アンケート調査の集計結果と分析（図 14）

以下、アンケート調査の結果を踏まえ、それぞれの質問項目について分析を試みる。

- (1) 年代別の内訳は 40～50 代が約半数の 47.9%であった。
- (2) 性別の内訳は男性が 27.1%、女性が 72.9%であった。
- (3) 住まいについては静岡市内が 66.7%、静岡県内では 95.8%で、回答者の約 7 割が静岡市民で、9 割が静岡県民であった。
- (4) 駿河竹千筋細工の認知度については「以前から知っていた」が 47.9%、「名前を聞いたことがあった」と「全く知らなかった」を合わせると 52.1%と、約半数の方は駿河竹千筋細工を認知していなかった。
- (5) 「以前から知っていた」人で、駿河竹千筋細工を所有している（た）人は 69.6%で、駿河竹千筋細工を認知している人は高い確率で所有していることが分かった。
- (6) 所有している（た）人が所有している商品としては花器が多く、続いてペン入れ、照明という結果だった。
- (7) 所有している商品についてどのくらいの頻度で使用しているのかについては、68.8%の人が月に数回以上使用していることが分かった。当初、駿河竹千筋細工は高価な工芸品であるため、使わずにしまい込んでいた状況がもっと多いものと予想していた。所有している商品にもよるが、一度購入すれば日常生活の中で積極的に使用する人が多いことが分かった。
- (8) 駿河竹千筋細工のオーナメントのニーズについては、「とても欲しい」と「欲しい」と答えた人が 66.7%、「あれば使用する」を含めると 95.8%と、9 割が肯定的であることが分かった。なお、「あれば使用する」と答えた人は 29.2%と約 3 割で、こちらを選択した人は自分ではオーナメントは購入しないが、人から贈呈された場合は積極的に使用することが展望される。駿河竹千筋細工のオーナメントは自分自身のために購入するというよりも、贈答品としての価値も存在しているかもしれない。
- (9) オーナメントの人気投票について、人気投票第 1 位は「プレゼント BOX（31 ポイント）」、第 2 位は僅差で「SL（30 ポイント）」、第 3 位は「球体つみ木（25 ポイント）」、第 4 位は僅差で「指輪（23 ポイント）」という結果だった。当初の予想ではメインオーナメントである SL の人気は最も高いと予想したが、プレゼント BOX は子どものおもちゃとしての使用（例えば、おままごとの道具とし

て）の可能性も考えられるが、日常生活の中でも汎用性の高い器・トレイとしての活用もイメージできる。そのような汎用性が結果に結びついたのでないかと推察される。なお、第 3 位の球体つみ木について、こちらはクリスマスツリーのオーナメントとして従来から使用されている球体オーナメントと比較して大きな変化はない。しかし、駿河竹千筋細工で制作された繊細な線状の球体ということで、ツリー全体に程良い「抜け感」が生じていることが結果に結びついたと推察される。

- (10) 駿河竹千筋細工のオーナメントを商品化した場合の価格帯について、約半数の 52.1%の人が「2,000～5,000 円」を選択した。自分自身で購入するというよりも、誰かへの贈答品としての可能性を誘導した質問内容になっていたことも影響していたかもしれないが、「5,000～10,000 円」を選択した人も 16.7%存在した。
- (11) 駿河竹千筋細工のツリーに関する自由記述についていくつかの感想を抜粋する⁴。
 - （回答者 A）和のテイストのものだと思っていたので、クリスマスオーナメントとしての商品は新鮮でした。虫籠のイメージは夏ですが、このようにすれば冬でも楽しめますね。
 - （回答者 B）繊細で綺麗でした。いろいろな形を作ることができることに驚きました。生後 6 ヶ月娘と見ました。おもちゃとして欲しいなと思いました。
 - （回答者 C）静岡ならではの和のツリーがとても素敵で家庭用に飾れるオーナメントがあれば欲しいと思いました。
 - （回答者 D）駿河竹千筋細工のオーナメントがツリーに合うのかな？と疑問でしたがとてもマッチしていて感動しました。竹千筋細工の繊細で暖かみのあるオーナメントがそれぞれ魅力的で見応えがあります。ツリーのオーナメントにとどまらずおもちゃとして遊べたり飾りとしても使えて付加価値があるのがまたいいですね。懐かしくも新しい豪華なツリーに仕上がっているとします。たくさんの人に見て良さを知ってもらいたいです。

以上のように、駿河竹千筋細工のツリーに関する自由記述のほぼ全てが肯定的な意見であった。以下、回答者の自由記述を基に駿河竹千筋細工のツリー、およびオーナメントの価値について分析する。

回答者 A の感想からは、駿河竹千筋細工に対する商品イメージとして「夏に使用するもの」という先入観があることが確認された。風通しよく軽やかなイメージのある駿河竹千筋細工は風鈴などの商品もあるように、季節としては夏のイメージが強いと

いう見方があることが分かった。今回の駿河竹千筋細工のツリーは「従来の駿河竹千筋細工に付随された固定観念を払拭することができる価値」が確認された。回答者Bの感想からは、子どもを持つ親として「駿河竹千筋細工のおもちゃとして商品開発する価値」が確認された。回答者Cの感想からは、駿河竹千筋細工のオーナメントについて今回のような公共の場での展示用にとどまらず、「各家庭でも使用できる価値」が確認された。回答者Dの感想からは、オーナメントとして使用した後の活用提案に、従来のオーナメントにはなかった価値が付加されていると述べられている。今回のプロジェクトで提案したオーナメントコンセプト「子どものおもちゃとしても利用できるオーナメントの価値」の妥当性について確認された。

4. 成果と課題

本プロジェクトの全ての制作に関与していただいた杉山茂靖氏から以下のような感想を寄せていただいた。「依頼当初、これまで制作したことがないプロダクトだったため、どのように制作したら良いのか見当がつかなかった。非常に困難な依頼であったが、だからこそどのように制作すべきなのか試行錯誤する時間が貴重だった。具体的には、今回のオーナメントを実現させるためには専用の道具から新たに制作する必要がある。さらにはこれまで用いた制作手法を手掛かりにしつつも、手法そのものを開発する必要もあった。通常業務の中では新しいことを試したりチャレンジしたりする機会は少ないので、今回のプロジェクトは良い経験になった。」企業である以上、制作効率や利益の追求は当然考慮しなければならない。一方で、新しいものづくりにチャレンジすることで新しいスキルを獲得し、思考をアップデートすることは工芸職人にとっても重要であることが分かった。さらに、静岡大学の学生が企画段階から駿河竹千筋細工の職人と共創し、そのデザインが広く市民へ周知されたというストーリーは、静岡竹工芸協同組合の目標の1つである「(3)付加価値の高い商品づくり」として関与することができたと評価することができる。

本プロジェクトの課題としては、駿河竹千筋細工のオーナメントを今後いかに利活用することができるのかについて検討することである。グランシップでのクリスマスツリーの展示以外に、もっと多くの人々に使用してもらえるような機会や仕組みをあらかじめ設計しておく必要性を感じた。また、アンケート調査の結果より、「駿河竹千筋細工のおもちゃ」としてのニーズもある程度存在していることが分かった。駿河竹千筋細工の新たな価値を引き出すためのプロダクト開発も継続して推進したい。

今後の展望としては、すでに令和6年度のグランシップのクリスマスツリー装飾制作について、公益財団法人静岡県文化財団様からご用命をいただいている。今年度と同様に「静岡の技」の素晴らしさを多くの方々に認知していただくことが目標である。職人の「静岡の技」をクリスマスツリーのオーナメントに活かすために、駿河竹千筋細工以外の伝統工芸や職人の技についての研究を推進する。

[註]

- 1 経済産業省公式 web ページ
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/nichiyo-densan/index.html
(2024年1月4日閲覧)
- 2 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会認定の伝統工芸士とは、経済産業大臣指定の伝統的工芸品の製造に従事されている技術者のなかから、高度の技術・技法を保持する方を「伝統工芸士」として認定している。
- 3 駿河竹千筋細工オーナメントのクリスマスツリーは、2023年11月13日(月)～12月25日(月)の約1ヶ月間、グランシップ1Fエントランスに展示された。
- 4 感想文は原文のまま。下線部は筆者が加筆した。

[付記]

本研究は2023年度地域創造学環長裁量経費及び、科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号:23K02387, 研究代表者:川原崎知洋)の助成を受けました。